

巨樹・巨木シリーズ-14 埼玉県(その2)

細田木材工業株式会社

顧問 細田 安 治

本号もU氏の資料を基に埼玉県の巨樹・巨木をご紹介します。

◇埼玉県の巨樹・巨木の特徴

ケヤキの植生について気が付いたことがある。ケヤキと言えば寺社、神社が殆ど通例だが、しかし、しかし、しかし本埼玉県では何故か民有地にもケヤキの巨樹・巨木が見られる。これは、ケヤキが古くから自生していたからかもしれない。これが、ケヤキが県木となった理由の一つではないだろうか。

一方、スギについては神社のみであり、他県でもスギと言えば地域の信仰を集めている神社にあり、神様にご縁のあるのがスギの木、地域により神木として崇められているのがスギの木である。

・奇樹・珍木

そのほか埼玉県には奇樹・珍木^{たぐい}の類が多い。まず出てきたのは初めて知るカゴノキ(鹿子の木、鹿の子木と両方の表記がある)だ。何故カゴノキと言うのか? 当て字のようだが珍木というより珍名の部類に属するのか? そのほかジャクシンも初めて知る木である。この2種類の木は本稿を進めるにあたり新しい知識として得たものである。長年に亘り木材に携わってきたが、未だに新しい知識を得ているありさまだ。自分の知っていることなどは、ほんのわずかであることを思い知らされる。

◇^{たわめ}多和目のカゴノキ^{かこぎ}(鹿の子木 通称「なんじゃもんじゃの木」)

樹齢800年(樹木医の診断) 樹高15m 樹周14.0m 埼玉県坂戸市多和目天神社 坂戸市指定天然記念物

・坂戸市教育委員会説明板(平成15年)より

この木は正式名称が判明するまでに「なんじゃもんじゃの木」と呼ばれていた。昭和59年(1984)に埼玉大学永野教授の鑑定により学名クスノキ科に属する「カゴノキ」で、名称は「鹿の子木」と判明した。暖地性常緑喬木で、沖縄・九州・四国を中心に分布している樹木で、関東以北にはほとんど生育していない。植生上も貴重な樹木であることが判った。名称の由来は、淡緑色した樹皮が、円形に点々と剥落し、この部分に次々と白い木肌があらわれるようすが「鹿の子」の斑点と同じように見えることから、この名称がつけられたと考えられる。

・筆者のひとりごと

カゴノキとはどんな木だろう、と楽しみにしていたが、幹がいくつにも分かれ、どれが主幹か判



写真1 多和目のカゴノキ

別がつかないほどである。樹皮の剥落により「鹿の斑点」模様が名前の由来とあり、それは納得した。そこで似たような木にシラカバがある。こちらは樹皮を剥いで細工物の材料にするが、ここでいう「カゴノキ」「なんじゃもんじゃ」の樹皮は何に使うのか興味深い。単なる観賞用なのか知りたい。筆者の「ナゼナゼ」が頭をもたげる。

しかも樹木医の鑑定で樹齢800年とは？首をかしげた。オット樹齢を問題にしては……。とにかく、現物をこの目でしっかりと見たいものだ。

◇^{にっさい}入西のビャクシン

樹齢600～700年 樹高14.0m 樹周3.83m 埼玉県坂戸市
大塚石上神社 埼玉県指定天然記念物

・坂戸市教育委員会の説明版（平成25年1月）より

幹が右回りにねじれていることから、「ねじれっ木」と呼ばれ大切にされている。昔、徳の高いお坊様が、地面に突き立てた杖が根付いたと伝えられている。

ビャクシンはヒノキ科のビャクシン属の常緑針葉喬木でイブキ、イブキビャクシンなどと呼ばれている。昭和6年(1931)に埼玉県の天然記念物に指定され当時の入西村の地名をとって、「入西のビャクシン」と名付けられた。ビャクシンは臨済宗の寺院に多く植えられており、臨済禅宗と密接な関係にあったようだ。後に湯河原の城願寺、北鎌倉の建長寺、川口の長徳寺等に見られる。入西のビャクシンのちかくにある成願寺は、臨済宗の僧乾峰士雲が開いたと伝わる寺だ。乾峰士雲は、文和4年(1359)に鎌倉五山の建長寺、円覚寺の住職を

兼ねた高僧であった。現在この地は石上神社の境内になっているが、もとは成願寺の境内であったと考えられる。成願寺創建にちなんでビャクシンが植えられたとすれば、文和4年以降のことで、樹齢は650年余となると考えられる。このように入西のビャクシンは天然記念物としてだけでなく、歴史の証人として生き続けている。

・筆者レポート

独立行政法人 林木センターでは、坂戸市教育委員会より依頼されてこのビャクシンの後継樹を挿し木によって育てている。すでに50センチほどに成長したビャクシンの後継は、すでに幹にはねじれがみられるという。成長が楽しみである。

・筆者のひとりごと

このビャクシンは大蛇に巻き付かれ締め付けられながらも、四方に大きく枝を張り、緑の葉は豊かでしっかり天を向き、大蛇の締め付けなんのその「振りほどいてやる」とばかり緑の葉をふるわせている。幹にはコブが浮き出ており樹勢の強さを表わしている。臨済宗の高僧が創建したと伝えられているが高僧の権力を表現しているとも見えた。このビャクシンこそ是非とも見たいが、坂戸よりアクセスのよい

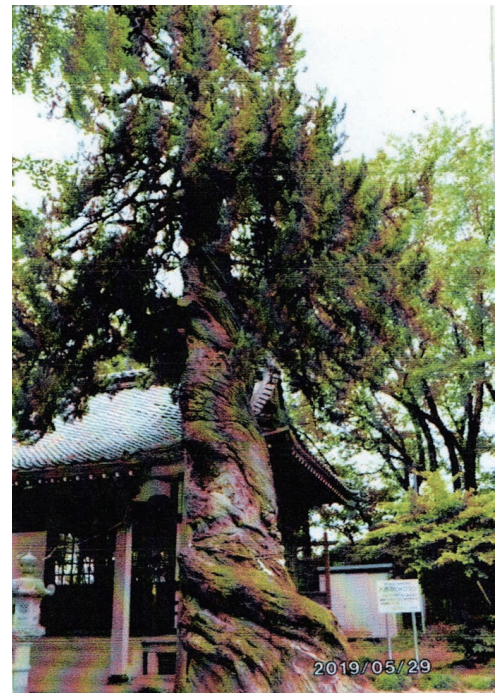


写真2 入西のビャクシン

鎌倉建長寺にあるとされるビャクシンを拝んでみたいものだ。

◇大附日枝神社の大ケヤキ

樹齢700年 樹高34m 樹周7m 埼玉県比企郡ときがわ町大附 都幾川村指定天然記念物

誠に残念ながら、大ケヤキは令和1年(2019)に枯死相当と判定され、伐採されて今見られのは株のみである。



写真3 現在の日枝神社の大ケヤキの姿

長祿元年(1457)に日枝神社の神殿の真後ろに植えられたという。伐採前の写真を見ると、もともとあった大きな枝がいくつか折れたためか、全体のバランスが崩れていて、しかも根元が大きく割れて中が腐食しているように見える。その一方、葉は元気よく生い茂っているように見えた。姿形は威風堂々、埼玉県のケヤキ巨木コンクールで4位の入賞も果たしているだけある立派なケヤキであった。

・筆者のひとりごと

大ケヤキは既に倒されていた。現在の姿は高さ3m余り、樹周7mある立派な「大株」である。信仰が篤い地域の信者たちによりしめ縄と御幣で根元を守り大事にされている。しかも畏れ多いことだが、「木材や」の眼で見る切り株は、玉杓が無数に浮き出ており銘木としてはまたとないような素晴らしい大ケヤキである。切株から新芽が出てくることを切に願う。

◇坂本のエノキ

樹齢300年 樹高17m 樹周3.86m 埼玉県東秩父村坂本 東秩父指定天然記念物

このエノキは個人の敷地内にあり、そこのご主人のお話をネットからご紹介したい。

「このエノキは神明(神さま)で、金鑽神社から勧請(神さまの分祠を請じ迎えること)されたもの」という。金鑽神社とは、埼玉県児玉郡神川町にある県内でもたいへん由緒ある神社である。このエノキは、神さまとしてこの秩父に来たということなのだろうか。

それでこのように枝振りのよく、ほかには類を見ない美しいエノキなのかもしれない。

・筆者のひとりごと

エノキとは古来神がかりの樹として敬われていた。筆者の故郷、静岡県気賀には以下のような話が伝わっている。

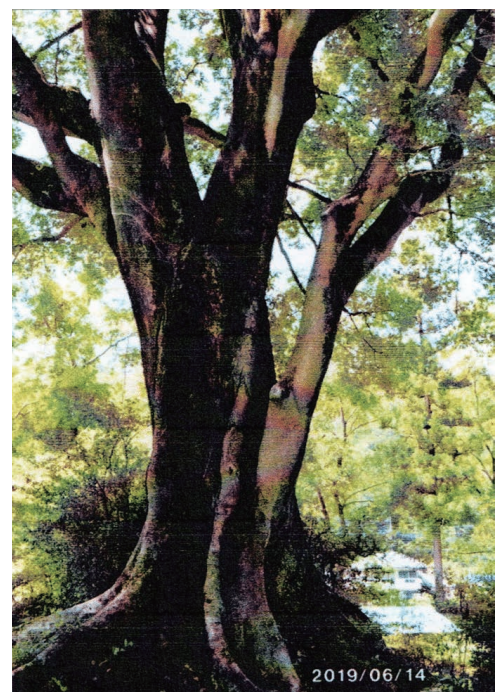


写真4 坂本のエノキ

エノキの大木を切り倒すと祟りがあると言われている。江戸末期、街道整備のためどうしても切ることになっていたのだが、誰も恐れて切る者がいない。そこで長兵衛という豪の者が、即刻引導を考え、大喝一声、この引導をエノキに渡した。これで木挽きは安心してエノキを切ることができたという。もちろん祟りはなかった。

◇天神社の大スギ

樹齢700年 樹高37m 樹周6.41m 埼玉県秩父郡東秩父村 安戸天神社

天神社には、このスギのほかにケヤキともう1本スギがある。いずれも立派な大木である。

この大スギの根元には「風雪に 年輪重し 神の杉」という歌碑がある。



写真5 天神社の大スギ

• 筆者のひとりごと

一見してこの大杉は頼りになりそうな、どっしりした感じのするスギである。根周り保護のため鎖を回し、幹にはしめ縄と御幣でしっかり守られた神秘的で重厚なスギの巨樹である。人にたとえれば誰だろうか。思考力、知力、判断力、包容力に優れ誰からも頼られる温厚な人物は誰だろう。これは宿題としたい。

◇清雲寺のサクラ (エドヒガンサクラ)

樹齢600年 樹高15.0m 樹周3.3m 埼玉県荒川神田野清雲寺境内 埼玉県指定天然記念物

このシダレサクラは、清雲寺創建の折に植えられたといわれていることから、樹齢600年ということなのだろうか。一般にシダレサクラはソメイヨシノより寿命がはるかに長い。なかには1000年を超えるシダレサクラもあるというから驚きである。

この清雲寺には開花時期が1週間ずれるエドヒガンサクラとベニシダレサクラが合わせて30本余りあるという。ゆっくり花見を楽しめることだろう。

• 筆者のひとりごと

U氏が探索のためこの桜を訪れたのは6月だ。写真も緑いっぱいの枝葉が枝垂れており、誠に絵にかいたようにたいへん美しい。この数十本のシダレサクラが開花したら、いかに美しいであろうか。写真をお目につけられず残念である。読者の皆さまにはご想像いただきたい。



写真6 清雲寺の葉サクラ

◇関堀の大イチョウ

樹齢1200年 樹高34.0m 樹周 8 m 埼玉県比企郡ときかわ町関堀 都幾川町指定天然記念物

この大イチョウは個人の敷地内にあり、大同2年(807)に植えられたと伝えられている。

代々のご当主がご神木として、大切に守ってこられたという。大イチョウの雄姿は、外からでも十分観察できる。樹勢よく、迫力あるイチョウである。

元禄年代に2度の火災にあい、現在でも割れ目に炭の痕跡がみられる。

・筆者のひとりごと

このイチョウが2度の火災にあうも、現在でも巨木としてあたりを睥睨している強靱さ^{へいげい}に感銘を受けた。2度の火事とは雷に打たれ火災となったのか、火の不始末からの火災によるものなのかはわからない。しかし「2度の火災にあう」と伝えられているからには、直接火をかぶったのであろう。にもかかわらず火をかぶるも何のそのと、生きぬいたのは、この樹の強靱な生命力と代々のご当主が祠をつくり大切にされてきたことで、神が守ってくれたのではないかと想像する。続く

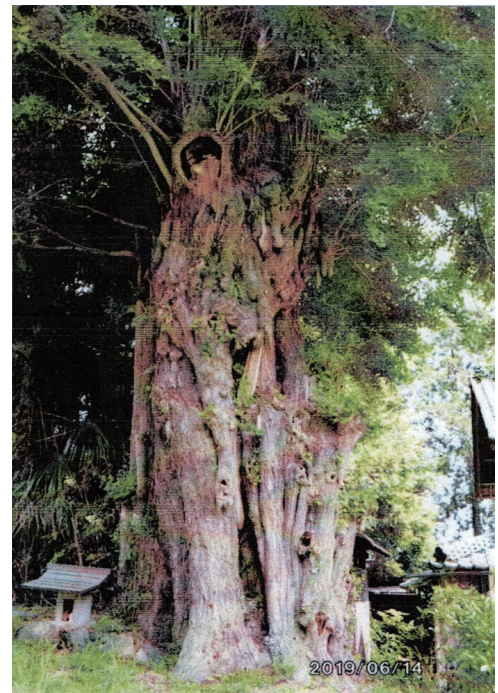


写真7 関堀の大イチョウ

6月 序論

第3章マネジメントの挑戦

- ・今世紀の前半、大量生産を理解し適用することにより世界のリーダー的地位を得た米国
- ・21世紀の世界のリーダーは変化に柔軟に対応するマネジメントができる国である。

◇私見

経済社会の推移略表

時代		理由	GDP
20世紀前半	米国	大量生産方式を理解し適用	第一位
20世紀後半 21世紀	日本	大量生産方式の適用と改善、系列戦後復興の延長企業と人との一体化 低成長 失われた20年 IT化デジタル化 地球温暖化	第二位1968年GNP 団塊世代 高度成長期約20年間1954年～73年 第四位中国に抜かれ西ドイツに抜かれる Z世代2023年現在12歳～28歳前後の年齢層に当たります。 デジタルネイティブ、SNSネイティブとも呼ばれるZ世代。

- ・今世紀後半から21世紀にかけてはIT化、デジタル化、オートメ化を理解し適用する国。
- ・ドラッカーはこれらの変化にマネジメントの役割と責任の重要性を認識し挑戦をせよ。
- ・マネジメントを理解し挑戦することが出来る経営管理者の養成が急務と心得る。続く